

■ 60代・男性

自分のガンが身体のどこにどのように、どの位の大ききで出来ている物なのかを「絵」で示して欲しいです。CT2bNOMO 具体的に知りた
いと思いました。自分のガンの事をどう質問したらよいのか分かりませんでした。

■ 60代・男性

前立腺がんと診断され、手術していただきました。診断されたのは職場を退職後、●●市の特定検診で初めて診断されました。職場で毎年健康診
断を受けていたのに何故発見できなかったのか疑問でした。その後いろいろ調べた結果職場の健康診断では前立腺がんPSA検査が入ってなくオ
プションであったことに気付きました。現在は職場でも検査項目に入っているかと思いますが、早期発見！とやかましく言われている時代滋賀県
は遅れていると思いました。もう少し早く発見できていたら手術後ホルモン療法をしなくてよかったかと思っています。よろしくお願いま
す。

■ 60代・男性

がんと診断された日から、生活が一転しました。8年前に母親が逝ってから、がんという病気を避けていました。今、兄のがんが発見して、約一
年。本当に、すがる気持ちで、色々勉強し、一つでも、良い事を探してきました。生活が一転した時、進む道や、治療をどの様に進めていく、そ
れをきちんと、教えてくれる場所、電話先があればよいと思います。今ある所は、ひと言と思ひ対応していると思います。自分の家族がその立場
になって、進む道を教えてほしいと思います。本当に、家族が2人になってしまい、私一人で、診るという方が、沢山いらっしやると
思います。どうか、そんな家族の方が、誰か、たよれる方がいると心強いです。お金ではない、本人、家族に寄りそって下さる方が欲しいです。年齢関係な
く、話を聞いて下さり、意見を下さる方がほしいです。

■ 60代・女性

がんと共に生きる生活、リハビリ（運動）、食事など在宅で必要な情報を今後も、研修会などで、患者向け発信。がんは特別なことではなく、普
通に生きること、そのような話も、ききたい。

■ 60代・男性

セカンドオピニオンを考えたが、高額のため、とりやめた。

■ 60代・女性

家族と情報を共有し、理解が必要。家族や友人の支えがあって、辛い治療も続けられたと思う。支援センターの看護師さんたちの優しさに、いつも癒された。感謝。

■ 60代・女性

治療にかかる費用に対して、～誰もが、安心して、がん治療を受けられるように～がん保険には、手術や入院に対してかけていたのですが、通院治療についてはかけていなくて、現在の治療は、通院治療で高額な抗がん剤治療が行われていることが多いので、支援が受けられなかった。また、それを補うものとして、健保の高額医療援助があるのだが、区分分けの幅が大きくて、毎月、15万円ほどの抗がん治療を通院にて受けていますが限度額が16万円以上であったため、全く支援を受けられない。子どもが大学生、大学院生、高校生の三人いて、その学費も国庫からの借り入れなので、返済もあり、本当に家計を圧迫し、一時は、家屋を売却することも考える程で、治療の継続することを心苦しく思う日々だった。いろんな家庭状況があるので、県が、患者に対して、安心した医療や支援が受けられて、自分らしく暮らしていくための、きめ細かな経済的支援が受けられるように、対応していただくことを切に願います。

■ 60代・女性

家族の支援と訪問看護師さんによる支援で元気になることができます。手術を受けるまでの期間は24時間点滴を受けていました。手術により普通食も食べれるようになり、体重も少しずつ元に戻りつつあります。2週に一度抗がん剤治療を受け3日程はなんとなくモヤモヤして、時々吐いてしまうこともあります。それ以外はうそみたいに元気に過ごせています。私にかかわっている方々のすべてに感謝しています。

■ 60代・女性

父、母、妹ともいろんなガンで亡くしました。自分もいずれはなるだろうと思ってました。みんなと違うガンで少しビックリしました。ステージⅢだったのも驚きでした。直腸癌→1年後肺に転移…もうすぐ1年目の検診です。またどこかに転移していたらと今は少し不安です。まあなるようになるかと…ガンの点滴治療はとてつらかったです。次回あってもしたくないです。

■ 60代・男性

外科、特に消化器外科の医師不足が深刻らしいですが、確かにDr.の異動が多いと感じてしまいます。待遇の改善が必要ではないでしょうか？個人的には膀胱癌の診断がされ、選択肢なく全摘術を受け、化学療法を受け、2年後に別件で救急搬送後膵ガンと診断され、切除術を受け、今年肝への転移が診られ、化学療法中ですが、体重減少、食欲不振、そして夏の暑さの中での行動範囲が狭くなってQOLは低下していると感じています。家族、友人、知人の支援で満足は出来ていますが、死を直視することもあり、良い面、つらい面もあります。同世代では40才代で亡くなる人も多くいたし、ガンも生活習慣病のひとつにされてもいるし、特別な病気ではないと認識していて、隠すこともなく他人と接する状況です。今の病状のままPPKピンピンコロリで逝ければ幸いかと思う毎日です。以上

■ 60代・女性

癌はとてもミステリアスな病気です。私の場合風呂で胸のしこりをみつけて診察受けたらステージ1の乳癌でした。手術、放射線治療・ホルモン剤治療しましたが、半年後骨転移、また半年後に肺転移が見つかり、抗がん剤治療を受けました。抗がん剤治療は想像以上に辛い毎日でした。不安と焦りで「死んだ方がマシかも知れない」と寝てばかりの毎日でした。そんな時病院での担当医の先生、看護師等の医療スタッフの方々に相談できた事がどれほど頼りになったか知れません。（深く感謝しています）私はいろんな支援を活用できて幸せですが、病院から遠い所に住んで受診する人は「病院受診がやっと。」と（高齢の方に多い）今まで支援センターの利用を受けないで1人で悩んでおられる人が多いと思いました。「悩みはひとりで抱え込まない」と「がん相談支援センター」のある事（電話だけでもOK）をもっと知らせてあげてほしいです。

■ 60代・男性

通院治療では、職場の時間休を使用するなど、休みが治療等へ中心となって、他の遊びや趣味又は家族との談らんを大きく減らしてしまい、大事な家族とのキズナをこわしてしまった。

■ 60代・女性

ある日突然、倒れたことにより発覚。その後の検査で悪性リンパ腫が見つかり治療。コロナ期でもあり、入院中に家族と会えなかったのが辛かった。ナースの方々、医師はとてもよくして下さいました

■ 60代・男性

ロボット手術。麻酔等によりさらに患者のダメージが少なくなることを希望します。

■ 60代・女性

癌というものについて、頭ではわかっていたつもり（かかるかもしれない、かかったらどうすべきなのか等）でしたが、いざ、宣告（?!）された時は、どうして？何で？今なんで？ということばかりでした。まだまだ、経過観察中ですが、再発の不安など、経済的なことなど、様々な事を考えます。

■ 60代・男性

近親者にがん罹患者がおらず、正に「晴天のへきれき」でした。種々検査終了後即入院を告げられ不安だらけでした。担当医の説明不足の補足を担当介護師さん等にしていただけたら、良かったと思います。現在治療中のため、担当医に委ね回復に努めたく思っています。

■ 60代・女性

65才まで働いていたので、職場の健診を受けていました。その後は毎年ではなく、健診の案内が来た時に受けていました。昨年、案内が届きました。そこで、乳癌が見つかりました。健診の大切さを実感しました。がん検診の必要性、案内を充実させてほしいと思います。

■ 60代・男性

●●市に居住しており、ガン治療できる病院が近くになく、通院に片道1時間以上かかり、特に冬期の通院等に困っている。●●病院などで十分なガン治療ができるように望んでいます

■ 60代・男性

がん治療中は心身共にしんどいです。にもかかわらず、通院中に待ち時間が長すぎてもっとスムーズな流れで早く帰れるようにして頂きたい。治療は続けたいですが通院だけで本人、家族共に相当疲れます。何か解決策はないものでしょうか？5時間近く病院に滞在するのは大変です

■ 60代・女性

がんと診断された不安とか、治療の辛さやしんどさは当人でないとわからない。だから他人に伝えても理解できないと思い、あまり言わないようにしています。望みとしては、合う治療を提供していただけることと、一日も早く治療薬の開発をしていただく事と、経済的負担を少なくしていただく事で不安が少なくなると思います。とりあえず日々楽しくすごせるように友人と何でもない事を話したり遊びに行ったり、おいしい食事をしたりして免疫力が上ったらいいなあとと思っています。

■ 60代・男性

ガン治療薬の負担が大きく現在は就労しているが、今後年金生活となった場合、治療が維持できなくなる不安がある。国は社会保障関係者の削減のため高額医療制度の改悪をすすめているが国会議員は裏金で私腹を肥やす前に議員数を減らすなり身を切ることを実施すべきである。

■ 60代・男性

病気に向きあいます。

■ 60代・女性

現代の医療はその時出現した症状へのつけ刃的な医療がほとんどで病院へ行くと手術・こうがん剤・放射線以外の治療の選択肢と情報しかなく東洋医療や補かん医療については自分で調べるしかない こうした医療についても一定のエビデンスのあるものを紹介してもらえたり情報がもらえるとよいと思います

■ 60代・女性

癌と分かった時から生活は一変しました。治療はいつかは終わると思えるから続けられて、終了した時は心からホッとするのですが、次は再発におびえるばかりで一向に終了しません。他人に話せれば楽になるかと思えたけれど癌と言った途端、気を遣われる立場になります。その人に荷物を預けられるのでなく、自分の心も重く互いに相手を想うばかりです。それが幸せでしょうか。

■ 60代・女性

検査、治療、入院、すべて高額です。なかなか、すべての人が、病院が言われるように、進めて行くのは難しいと思います。もう少し、金額が、安くなればと思います。

■ 60代・女性

2回目の免疫療法を終ったところです。Drからこの先、この免疫療法をどのくらい続けていくかと聞かれました。半年～1年、2年と人により違う事、金銭的な事など色々な部分で考えておいてほしいとの事でした。癌保険には加入してなかった事もあり、心配はあるのですが、どのくらいで決断するものなのでしょうね…また、いつ転移、再発があるか、ビクビクしています。そろそろ時短か、パートで仕事をとを考えていた矢先7月始め頃から、腰痛があり日に日に痛みが増してきたため近所の整形外科に行きました。腰椎すべり症と診断を受けました。食道癌になってから、体重もみるみる減り、小学生並になってしまいました。筋肉もなくなり悲しくなります。つぎつぎと病気に好かれて笑うしかないですね…ちょっとグチです。心まで病氣にならない様に気を付けます。

■ 60代・男性

現在、手術後に発見された 他への転移の治療の為、抗がん剤治療中。病氣との闘いというより、投薬による副作用との闘いとなっている。抗がん剤治療を始めてから7ヶ月余がたつが、余り改善していない。いつまでこの状態が続くのか不安でもある。日々、できるだけ1日を充実させる為に、楽しい事、やりたい事をする様、心掛けて生活している。

■ 60代・男性

がんとともに生きるためには、治療、生活支援などたくさんの事がが必要です。がんの診断により、今後は生活全般に影響しますので、知っているようで知らない「がん」について広報して下さい。（ほどほどに）

■ 60代・女性

2023年10月黄疸が出た為、ステージ2での早期発見になりました。和歌山県●●市に住んでおり、●●病院へ。胆管が閉塞していた為手術。その際膵臓癌の疑いがあると診断されました。2019年、姉が同じ病で他界しており（発見時ステージ4）当時●●(病院名)の○○先生に診てもらっており、大変満足してこの世を去りました。義兄がこの病気のノウハウを把握していた事と、私自身夫を失くし子供もいなかった為、滋賀で治療する事を勧めてくれました。11月より●●(病院名)へ、同じく○○先生のもと、半年間の抗癌剤治療を経て2024年4月に手術、現在に至ります。先生より「お姉様の時、4年前から医学はめざましく進歩しているから」と言われ、いつも楽しく、明るく接して頂きポジティブに…入院中、看護師さん、薬局の方等々皆さんちっぽけな悩み（色素沈着等）にも親切に対応して下さいました。今こうしてとっても元気で過ごせるのも家族・友人・●●(病院名)の方々のお陰と深く感謝致しております。

■ 60代・男性

健康保険組合から費用の補助があるので経済面での負担が少なかったが、今後退職後、国保になったときの治療費に不安がある。国保も組合保険並の補助が欲しい。

■ 60代・男性

がんは、完治する（うまくつき合うていける）病気であり、平均寿命まで延命できると思い30年間足腰を鍛えています。（早歩きで）

■ 60代・男性

病院の選定。病院での検査方法。幅広に検査。

■ 60代・男性

ガン治療での医療費、高額療養費での自己負担額が月額81,000円となっていますが、ガン治療での理由で仕事も退職し、年金生活となりました。抗ガン剤治療での副作用もあり、自宅療養での生活を送っています。退職により、収入が全く無くなり、副作用の影響もあり、アルバイト、パートの仕事にも就くことが出来ない状況にあります。貯蓄のきりくずしの中で、治療費の月の支払いは非常に大きく、税金面も大きな負担となりました。今迄、仕事に就いていた頃は毎月の定額の収入もあり、生活費、税金、保険料も問題なく支払い出来ていましたが、ガンになり、仕事ができなくなり、収入が無くなり、今までほとんどかからなかった医療費の負担が非常に大きい状況です。

■ 60代・女性

がんを宣告されただけでも心は重いのに経済的にもかなり負担になっています。15年と長期になり、5年前からは全身転移の為、分子標的薬や新薬の処方を受けています。高額医療費制度を利用しても長期に渡るとつらいものがあります。また副作用もきつく出る時があり、薬が変わる度、前の薬の副作用が残り、たし算状態です。もう積極的な治療はいいかなと思っています。

■ 60代・女性

がんになってから、家族や時間の大切さを痛感しながら、毎日を一所懸命生きているつもりです。しかし、先の見えない不安で、大切な時間を楽しめていない自分もいます。考えても仕方がないことをずっと考えてばかりいて、後悔することも多いです。一日でも長く家族や友人と幸せに過ごせるように毎日お願いしています。穏やかに暮せている今、ほんとうに感謝しています。

■ 60代・男性

治療方法の多様化に伴い取り扱い機関との連携の充実。自主・先進・保険治療時の取り扱いの柔軟性の向上。高額医療費制度のわかりやすい運用（特に高齢者）と窓口での説明。

■ 60代・女性

様々な医療従事の方に関わって頂き助けてもいただいたのですがやはり地域格差がありすぎる事。プライバシー管理、特に救急受け入れは非常に杜撰で大変不安である。名ばかりの地域連携、一方的なピントはずれの返答も多くありました。相談支援の窓口（電話）も夜間にはなく一人でいる不安をはき出せず体調も良くならない日々でした。治療を受ける時間の短縮にも改善を強く求めます。田舎の市民病院しかなく夜間の時間受け入の診察があまりにひどい事の改善下さい。不安しかありません→（担当医ではないタメ）

■ 60代・女性

「がん」というとマイナスイメージが多いが、人は皆いずれ死からはのがれられないので、突然死するよりは治療期間中にいろいろできてむしろありがたいと思っている。自分をふりかえり、家族への思いを整理できつくづく幸せであったと思う。

■ 60代・女性

何年か前から便潜血ひっかかり、検査がいやで、様子みていた。義母の介護が自分自身の股関節の手術等もあり、また2年前くらいから検査もなくなって、今年、違和感があり自分でもしかしたら…という思いもあり受診、確定し、子供たちからおこられ、あきれられたが手術で転移もなく、ホッとしている。自分自身、看護師ということから色々思い、考え、ずるずる検査のばしのばしして、また仕事上ストレスためすぎ、今年発病(?)したのかと思った。マスローの5段階もとびこえ、“あーなってしまったか”とカメラ見て思い、手術後は癌というよりも痛み（創痛）、排泄が気になり、“癌”とむきあっているかどうか…自分でもわからない。このわからないという思いを、相談センターで話すのがいいのかどうか…まよっている。今、治療してもらっている先生、病院には感謝しています。

■ 60代・男性

2人に1人が罹患する病気ですが、自分だけは関係ないと思って検診を受けない人がまだまだ多い。「見つかったらイヤだから」せっかく体験談を話しても…他人事で終わってしまいます。早期発見（検診）、早期治療の重要性をもっと公報などで啓発、周知する事が必要だと思います。（特に費用負担、治療期間、社会復帰などの違いについて）

■ 60代・女性

いろんな情報がありすぎて、スマホなどで調べたりすると、余計に心配になってしまうので、心が乱れます。人それぞれ、がんの種類も、治療方針も違うと思いますが…人の話を聞くと、アレ？…おんなじ癌でステージも同じなのに抗ガン剤をしなくても良かった人がいたり…すると、かえって不安になったりします。一人一人の治療方法が違うのはわかっているけれど…そういうことも納得のいくまで先に説明してほしいです。無用な心配や不安なくて良い様に。先生のレベルと無知な一般の患者との間には差があり、つまらないことを聞くのはひかえなければと思いますとまどいます

■ 60代・女性

がん治療の初期から、緩和ケアを気軽に受けられる体制があると心の負担感が減るように思います。がん相談窓口も、きっかけがないとなかなか気軽に相談することがむずかしいです。自分から行動を起こすことも大事だとは思いますが。リンパマッサージや術後の運動、リハビリ体操など、術後のケアが充実すると、大変助かります。そこで、患者さん同志の対話やつながりもできるのではないのでしょうか。

■ 60代・女性

身内や友人にがんになった人がいないので、どこかがんは遠い存在のように思っていました。まさか自分ががんになるとは、思ってもみなかったもので、とても動揺しました。手術を2回、その後化学療法（TC療法）を6コース、術後、腹水貯留のため、腹水穿刺、CART療法を繰り返し行いました。心構えはしていましたが、卵巣、子宮がなくなり、髪の毛がごっそり抜け始めるとやはりショックでした。治療はつらくて、心が折れそうになったこともありましたが、信頼できる主治医の先生と出会うことができ、看護師の方々、皆さんに良くしていただき、そして、そばで支えてくれた家族や友人のおかげで、治療に前向きになり、頑張ることができました。現在は経過観察中で、抗がん剤の後遺症で手足のしびれがあり、以前のように体力、筋力も戻っていませんが、1年半、休職していた仕事に復職することができました。再発、転移の不安はありますが、ここまで元気になれたことに感謝しています。

■ 60代・男性

がん医療に関わる専門性の高い医療機関の充実

■ 60代・男性

がんの早期発見、早期治療

■ 60代・女性

2025. 2月～3月に手術でとりきれなかった癌に対して放射線治療うけましたが、私の癌には効果がなかった為9/10～また抗癌剤の点滴3日間をくり返しています。放射線終了後の体調が悪く●●病院の陽子線、小綿源治療の説明もききにいきましたが、続けての放射線もよくないとのこと、抗ガン剤でしっかりたたいてから、間をあけて受けることをすすめられ、またフォルフォックスに戻って通っている状況です。家族に助けてもらい家に帰っても5～7日は体調悪く、抗ガン剤が抜けた時分にまた次の入院です。けどがんばってます。

■ 60代・女性

がん治療に伴う副作用の軽減や対策等をもっと知りたいと思った。私はインターネットでそういった情報を集めて、自分にあった物を実行したりしています。インターネットでの情報には、まどわされる事も多く、間違った情報もあり、判断しかねる事もあるため、そういった正確な情報を県で発信していただけるか、そういった癌患者専用のサイトを県で立ち上げてもらえるとうれしいです。又、ヘルプマークもインターネットで初めてそう言ったものがある事を知りました。病院で配布していただけるとありがたいと思いました。

■ 60代・女性

担当の先生には、現状を正確に知らせて頂きたい。そして治療等について先生の所感を示して頂き、方針を説明して欲しいと思います。患者は担当の先生を見つめながら、共にたたかいを歩んで頂ける先生に頼ることしか出来ないの、宜しく願いをする訳です。一方病院側は治療費等の説明、又高額医療費補助制度、又、個人の生命保険等の関係等も助言が得られれば有難い。

■ 60代・男性

県でこのような支援体制があることを、このアンケートで初めて知りました。手術等、病院で聞けない、聞きにくいこと知れたら、不安感も軽減できたと思う。

■ 60代・男性

主治医との話し合いで治療を共有化して過ごしています。全国でがん治療薬が日々、開発されているが、地方でも早期に対応でき、使用可能な体制を進めて日々進化を願う。

■ 60代・男性

酒、タバコを毎日の習慣にしていたので、会社での健康診断で毎年、胃カメラを行なっていて予防早期発見につとめていたが、コロナの流行で3年間、会社での胃カメラ検査が受けられず（バリウム検査に変更）にいた。●●市の成人病検査券で受けようと思ったが期間がすぎており虫の知らせか、そろそろ1回胃カメラ検査を受けようと思い自費で受け発見にいたる。コロナがなければもっと早期に発見できたと思うと、くやしいと言うか、運命と言うか？なんとも

■ 60代・男性

私は3年半程前に脳腫瘍が見つかり、同時に肺がんが見つかりステージ4と診断されました。脳腫瘍は手術で除去、その後抗がん剤治療を続けてきました。2番目の薬が副作用は強かったのですががんサイズも維持でき3年たちました。その後薬の変更を2回したのですが、がんが大きくなり、また今年に入り、脳の手術後の放射線による脳の壊死が発生し半身マヒの状態が入退院を重ね、再度脳の手術をして壊死部分を切除し、今リハビリで回復してきている状況です。大元の肺がんについては効く薬はもうないとのことで、今放射線治療をしながら次の抗がん剤投与と併用して進めているところです。PET検査の結果では他への転移が見られず、上記の治療となりました。先行はものすごく不安です。テレビで紹介されたがん細胞に届く放射性物質や、免疫療法など早く保険適用となる様願ってます。

■ 60代・男性

健康には30～40代自信があったが過信があり病院に行かず油断があった。定年前から腰の痛みがあったが受診せず会社の定期健診にも大した異常がなく油断していた。定年後腹の痛みがひどく便秘だろうと思っていたがある医者さんがエコーで腹部を調べてもらい異常がわかり入院となった。MRI等の診断でリンパ腫3期とわかり（もう終わりだな）と思いしんどい（精神的）な入院生活が3年程続きました 担当の医師、看護師の皆さんのおかげもあり2022年状況がたいへん良くなり無事に5年生活させてもらっております。健康である事がどんなに幸せな事か勉強させていただいた5年間であると感じます 対応いただいた医療関係の皆さまに感謝します

■ 60代・男性

がんの治療中に先生の移動があり前の先生のほうがわかりやすく、（説明他）よかった。

■ 60代・女性

やはり早期発見が大切だと思いました。

■ 60代・女性

治療後の定期検診などの費用の補助があれば気持ちも楽になるし通院がしやすくなる。高額医療の手続きをしても審査が通らず受けられなかった。これから先がずっと長いので補助制度などがあれば良い。再発したらと思うととても不安である。

■ 60代・女性

がんになり治療の内容の説明や、患者の精神面、金銭面をしっかりと考えてほしい。がんの治療中は、抗がん剤が死ぬほどつらくて、早く楽になりたい、死にたいと毎日考えていたが命をすてても誰にもわかってもらえないと思い、生きながら、今の生き様を家族・知人にみせていきたいと思って、今生きてます。

■ 60代・男性

膠原病の治療を●●センター(京都府)で受けていたのでガン治療も連携をとって行って下さっていた。ただ通院には負担(高速や、下道2時間)かかり毎週(化学療法 ない日は点滴)になった。近隣にガンと膠原病のある総合病院が欲しいと思った。最期は、●●センターへ2週間お世話になり、9月初旬永眠致しました。●●才だったので介護保険を受けるのも本人も迷いがあった。本人が納得するまでに時間がかかった。介4が出たが利用が間に合わなかった。母親と息子(本人)の2人くらしだったので、母親(●●才)が介護しており負担が大きく感じた。身近に相談できる方がいるともっと心強かったと思う。

■ 60代・女性

がんは国民の2人に1人がなる病気と言われていますが いざ自分になったら「なぜ私が…」と思わずと不安でしかありません。再発の不安、お金の不安が少しでも和らぐ体制を望みます。(定期的に通院していますが不安がなかなか口には出せないなので緩和ケアなどに行ける道筋を作ってもらえると助かります。) 高年れい社会の日本 入院時の保証人や病状説明を一緒にきいてもらう人などがいない人も多いと思います。その時の対処方法も考えていただきたいです。

■ 60代・男性

私はマイクロサテライト不安定によるものですが、遺伝子系のがん患者に対する窓口の充実(腫瘍内科等)を望みたい。また、治療法の確立、研究も含み、情報提供も望みたい。

■ 60代・男性

前立腺ガンが増えている現状から、職場で定期検診に、50歳以上の男性は、PSAの血液検査を義務化するなど、早期発見につながる施策を行ってほしい。

■ 60代・男性

今、休職中で、傷病手当金以外の収入がないのですが、社会保険料・住民税などは就労時と変わらず、減額がないのは残念です。自己負担が大きいです。

■ 60代・女性

治療の始めの頃（6ヶ月程度）は想像していたより副作用は軽く、新しい薬が効いてがんが小さくなり、この調子なら回復まで治療を続けていけると喜んでいましたが、その後の定期的な検査で数値が悪くなって薬が変更されたことで副作用がひどくなり軽い家事も出来ない日が多くなり庭の手入れ、野菜作りなども難しく、体調優先の暮らしは思うようになりません。治療の合い間の体調の良くなるわずかな時期に旅行を計画したり、季節の花を見に行ったり（来年は見られるかどうか、不安でもあります）明るく暮らしてはいるのですが、病気がわかる前の普通の暮らし方がもう一度できるような自分に、いつかもどれるのかと、だんだん不安に思うこの頃です。通院で抗がん剤治療を1年半続けています。高額療養費の自己負担限度額（入院44,400円 通院44,400円合算されないルール）をあとどれくらい払うのかも気になります。高価な薬に助けられて、今日があることを思うと、医学の進歩に感謝し、有難く思っているのですが。

■ 60代・女性

胃がんと知った時は、すご〜く落ちこみましたが、周りの人の力添えもあり、前向きになって、抗がん剤が後ものすごくつらいけれど「これくらい大丈夫」と自分に言いきかせながら、生活しています。食事も本当は食べたくはないのですが、御飯1杯は“食べなあかん”って言いきかせながら、毎日食べています。

■ 60代・男性

患者の就労者の収入の増える賃金補助

■ 60代・女性

今は治療中なので膀胱を温存して健やかに暮らせる日々を送れるようにと思っています

■ 60代・女性

ほとんど以前と変わらない日々を過ごしていますが、漠然と「命の期限」を感じるためか、時折恐怖が襲ってきます。家族に話すと心配するので、今のところは話しません。どこまで続けられるかはわかりませんが。現在、「嫌だな」と思うのは、他人が家族に聞いてくることです。静養している事を伝えると、病名を知りたそうな感じになるそうです。私が話さないように頼んでいるので家族は静養している事以外は話していないそうです。本人がオープンにしたいくない事を詮索するのは失礼だし、そこから必ず拡がるのはわかっています。そっとしておいてほしいと思います。

■ 60代・女性

この病気になってショックより何で私かという思いと、仕事まで辞める事のくやしきで一杯でした。検査の後、コロナ禍での入院・手術は、想像以上に不安なものでした。先生、看護師さんには丁寧に接して下さり、感謝の気持ちでいっぱいです。化学療法も副作用の心配も多々ありましたが、しんどい時期と楽な時期をコントロールできるようになると、投与1週間経過すると…ハッピーウィークと名づけて、食べ物も美味しいし、次の投与まで楽しく過しました。治療室で看護師さんと話す他愛な会話は、楽しみのひと時にもなりました。現在も治療中ですが、サークル活動をしたり、ウォーキングをしたりとのんびりと時間に追われる事無く過しています。ご飯がおいしいのは最高の幸せです。そして、すべての人、物に感謝です。

■ 60代・女性

がんが見つかった時自分の人生が終わった様に感じられて悲しかった。でも入院してから病院のスタッフや先生達の暖かい気持ちが前向きにさせてくれました。4期で転移も見られた状態から現在元気でいられる事は本当に先生に感謝しかありません。自分でここまで来れたのは生きる目標（子供）と就業先の社長達の気づかいと理解のおかげです。働きながら治療する事は体力的にも精神的にもきついです。困りの理解があればこそ治療中に同じ様ながんを患っている人達との会話は勇気と同じ気持ちで元気づけられた。同じきょうぐうの人達と話が出来る会がどんどんふえたらいいと思う。それと目的（生きる）が出来ると取りくみは大事だと思う。